

(様式1)

## 視 察 報 告 書

令和6年11月5日

鳥取市議会議長 西村 紳一郎 様

鳥取市議会議会運営委員会  
委員長 魚崎 勇

本委員会は、下記により委員を派遣し、行政視察（調査）したので、その結果を報告します。

### 記

<b>1 期 間</b>	令和6年7月9日から令和6年7月11日まで
<b>2 派 遣 先 及 び 視 察 ( 調 査 ) 内 容</b>	愛知県岩倉市 ○議会サポーター制度について ○政策提言について  愛知県知立市 ○議会モニター制度について ○高校生議会について  滋賀県彦根市 ○議会改革・開放の取組について (大学連携、議会報告会、子ども議会)
<b>3 派 遣 委 員 の 氏 名</b>	委員長 魚崎勇 副委員長 石田憲太郎 委員 勝田鮮二、浅野博文、星見健蔵、長坂則翁、 岡田信俊、寺坂寛夫、上杉栄一 (西村紳一郎議長、吉野恭介副議長)
<b>4 委 員 会 所 見</b>	別添のとおり
<b>5 参 加 者 所 見</b>	別紙のとおり

(別添)

## 議会運営委員会行政視察（岩倉市・知立市・彦根市）所見等

### 【岩倉市】

・岩倉市議会では議会サポーター制度が制定されているが、一つの方法として有効と考える。本市においても、議会基本条例に基づき、議会改革を今後とも進めていかなければならない。

・議会サポーターの報酬は、1年間継続者には3,000円のクオカードだけのようであり、職務の割に安いように感じ、サポーター不足の要因にあると思えた。また、再任のサポーターが4割から5割おられ、意見が偏る傾向ともあり、幅広い意見を聴取するためにはサポーターの更新が必要だと感じた。

・議会サポーター制度は、年代別と構成比に応じて無作為に市民を選任している。市議会の支援者として様々な意見を採用していて参考になった。政策提言については、常任委員会審査だけではなく、委員提案、議会報告会、意見交換会での意見、請願等から選定していて、幅広く活動していると感じた。

・議会サポーター制度は、議会運営等以外の市政に対する意見が多くなりがちとの説明があり、現在行っている意見交換会との線引きをどのようにするのか検討が必要と感じた。政策提言はサポーター制度やトークカフェ等での市民意見や要望をもとに検討されるなどしており、意義のあるものだと思う。委員会として取り組むに当たり委員全員の合意形成がなかなか困難と想定されるが、検討すべき取り組みだと感じた。

・議会サポーターの名称をモニターではなくサポーターとしたのは上から目線での意見になってしまう懸念と、市議会を支援する観点から意見を求めるためとのことで、この制度に取り組む思慮の深さを感じた。

・議会サポーター制度について、議会モニターではなく、議会サポーターとしたのは、モニターでは上から目線での意見になってしまう懸念や、サポーターということで市議会を支援（応援）する観点から意見提言を求めるという理由から名付けられたとうことが、一番印象に残った。

・岩倉市議会には委員会代表質問の制度があり、どのようなものか色々聞いてみたが、それぞれの委員会のメンバーの総意でないと質問できないようなので、様々な会派等があるなかで難しいと感じた。

・岩倉市議会では常任委員会の中で出された政策において、全委員の賛同が得られたものについては、委員長が代表質問を行うことができるようで、個人の質問と違い、意見・提言が通りやすくなるのではと感じた。

・多岐にわたり議会としての取り組みがなされており、岩倉市の議員は多忙を極めているとの印象をうけた。

・「サポーターの声」という制度により、議会に対する率直な意見や感想を随時受け付け、提出された意見に対して回答を求められることができると聞き、本市も取り入れる部分は大いに検討するべきと思った。

## 【知立市】

・議会モニター制度は、議会に対する意見は反対者の意見が大きくなりがちなので、公平な意見を取り入れる方法として良いのではないかと思う。高校生議会については、政策がどうしても高齢者偏重となりがちの中、中長期的な政策企画立案には効果的と考える。

・議会モニターからは議会活動をしっかり行っているとの評価をもらった結果、各常任委員会委員長には委員長手当1万円／月を支給することに結びついた話が一番印象に残った。

・モニター制度について、人数が3人程度ということであり、せめて10名程度は必要でないかと感じた。高校生議会については、我が市議会でも議会報告会と意見交換会を実施しており、執行部へも報告をしているため、内容としてはほとんど一緒であると思った。今後も開かれた議会の必要性を感じた。

・高校生議会について、「議会や議員を身近な存在と感ずることができた」「自分たちの意見が反映されるとうれしい」など、前向きな感想が多くみられたとされている。次代を担う多くの方々に、自分の住むまちについて考え、よりよい社会づくりに関わってもらうことができれば、すばらしいまちになると思う。

・高校生議会について、本市議会が行っている高校へ出向いての議会報告会・意見交換会と類似する点も見受けられる。本番は当日のみなので、それまでに学校側・教員生徒との連携をしっかりと取り、当日十分な議論ができる状況を構築しておくことが重要だと感じた。また、市長への提案につながったものは学生へ結果のフィードバックが必要と思った。

・高校生議会は若き市民である高校生の意見を聞く機会の創出で、大変重要な取組と認識している。知立市のファシリテーターでの取組を参考にしたい。

・本市議会もより市民に開かれた議会を目指し様々な工夫をし取り組まなければならない。その手法として議会モニター制度も有効と考える。本市議会としても議会報告会・意見交換会を高校生、大学生を対象として実施しているが、その内容、進め方について検討する必要があるのではないか。

・議会報告会の開催にもいち早く取り組んでおられる知立市であるが、当初ほどの関心を継続することは難しいようであり、どの取り組みも現状維持がやっとなのである。特効薬のような即効性のある改革の手段を得ることは期待できないが、様々な取り組みを行ってみることは大変価値があると感じた。本市においてもすでに取り組んでいる事業・行事もあるが、さらに具体的な提案をいただいたと感じる。

・本市議会でも市内高校との研修（議会報告会）を行っており、内容的には知立市議会の高校生議会と大きな違いはないと思う。第2回の高校生議会では、高校生が事前に調査した内容を報告し、その内容について議員を交えて意見交換している。本市議会では高校生からテーマをもとめて、そのテーマの問題点等議員が説明している。次年度、高校生との研修を行う場合、知立市議会の取組のような高校生が事前調査した内容で議論することも考えてみたらどうか。

・議会モニター制度について、モニター資格を議会運営に関心があり満18歳以上の市内在住・在勤または在学の人とされておられ、応募しやすいと感じた。モニター会議は年2回開催され、年度初回は専門知識の方より助言があると聞き、参画するにあたりとてもよい企画だと思った。また、謝礼が無償と聞き、責任負担が軽減され意見が出しやすいと思う。

### 【彦根市】

・彦根市の議会改革の取り組みは近年の議会、行政への関心の希薄化、選挙の投票率低下に対して効果的な取り組みと感じた。また、大学の専門性を生かした大学連携はとても良い取り組みであると考え。本市としても取り組み手法を考える必要性を感じる。

・議会改革に係る広報広聴については「議場開放促進委員会」「広報委員会」「広聴委員会」の3組織を立ち上げ、広報広聴調整会議で調整を図るなどの充実を図っている。平成25年から開始した議会報告会は、開催実態を分析しながら新たな取り組みに挑戦されていることは非常にすばらしく、検討材料として活用すべき取り組みと感じた。

・議会報告会については、様々な試みが行われている。市議会だよりについては、縦書きを横書きに変更。鳥取市においても市議会だよりは横書きがよいと個人的に感じてる。大学連携、議場コンサート、子ども議会の開催など、斬新なアイデア的な事例を紹介いただいたが、簡単に成果が上がる策はないようである。やはり、議員各自の草の根運動的な活動がなければ浸透しないと感じた。

・議会報告会について、事業を取り組んだ後、必ず振り返りをして次に向かって改善点を見出し実践されている。取り組みにスピード感とワクワク感があり、チームワークがよく熱意があるのだと思った。

・オンライン議会報告会への取組は今後の検討課題としたい。また、本市の議会広報委員会において、市議会だよりの横書き編集を検討してほしい。

・子ども議会について、本市でもかつて子ども議会を開催した時期もあったが、彦根市のように事前の準備や打ち合わせ等、入念な準備をして臨んだものではなかったように思う。本市では、執行部が主催して8月に「こども会議」を開催する予定である。議会も協力することとなっているが、本来は議会が主催すべきと思う。「こども会議」は少なくとも3年間は続けられるとのこと。次年度以降は議会も積極的に参加すべきと考える。

- ・子ども議会について、全体的に議員が関わり、大人の市議会本会議と同じように行っていて素晴らしいと感じた。しかしながら、子ども議員の提案が実現したケースがないとのことで、残念に感じた。

- ・議会改革は議会人として永遠のテーマであり、不断から取り組む課題と考える。議会改革の手法等は、大いなる知恵を出しあって進めるべきである。

- ・議員が大学の授業に参加し、学生と意見交換したり、議会としてのインターシップの受け入れをしたり、さらに大学と協力してビックデータを利活用したりと、winwinの関係を築かれており、お互いに今後の取り組みに期待がもて、大学との連携の成功につながっていて、本市も参考にしたいと考える。

### 【3市共通】

- ・この度の視察においては、議会とは何か、どうすれば若い世代の方々に関心を持っていただけるのか、市民の意見を幅広く聞くことで、自分の住むまちをより良いまちにしていけるのか等、そのために広報・広聴のあり方について、各議会であらゆる努力をしておられることを感じた。鳥取市議会においても、特に広聴について力を注ぐ必要があると思う。それが議会への関心を深め、身近なものとして感じてもらうことに繋がり、投票率の向上にもつながるのではと感じた。

- ・先進地3市を訪問し調査をしたが、内容について非常に参考となるものであった。特に広報・広聴への取り組みについては、幅広い市民はもとより、小学生から大学生までに渡り市議会への参画について熱心に取り組まれていた。やはり若い世代から議会や市政に関心を持ってもらう事が重要で、議員としても説明責任や意見交換の重要性であり、責務であると感じた。また、参考までに、議会だよりについては、本市議会の縦書きとは違い横書きとなっており、非常に見やすく、また綴じやすく今後の検討材料としたい。

- ・この度の視察研修会の視察項目の説明を3市議会ともに議員により説明を受け、質問に対して回答をいただいた。一部議会事務局のサポートもあったが、特筆される対応と感じた。本市は議会事務局任せと認識している。今後の議会関連の視察受け入れの対応についてはどこかで議論すべきと感じた。